

Change and Innovation

経営戦略説明会

2015年12月2日

 SUMITOMO CHEMICAL
社長 十倉 雅和

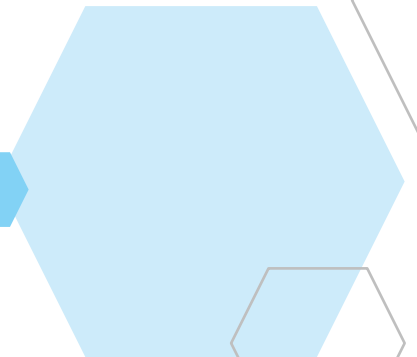

ANNIVERSARY
SINCE 1915



目次

- 2015年度の業績動向
- 次期中期経営計画に向けて
- 主要プロジェクトの進捗
- 持続的な成長に向けて

2015年度の業績動向



(単位:億円)

	2014年度 上期実績	2015年度 上期実績	前年比
売上高	11,284	10,759	-526
営業利益	362	742	381
(持分法損益)	138	286	148
経常利益	528	1,004	476
純利益	226	609	383
ナフサ価格	¥70,400/kl	¥48,200/kl	
為替レート	¥103.01/\$	¥121.87/\$	

2015年度上期業績:セグメント別営業利益

Change and Innovation

(単位:億円)

	2014年度 上期	2015年度 上期	前年比
スペシヤリティケミカル	406	648	242
エネルギー・機能材料	-7	-3	4
情報電子化学	145	187	42
健康・農業関連事業	114	271	156
医薬品	154	194	39
バルクケミカル	13	134	120
石油化学	13	134	120
その他	-57	-39	18
合計	362	742	381
持分法投資損益	138	286	148

(単位: 億円)

	2014年度 実績	2015年度 予想	前年比
売上高	23,767	22,500	-1,267
営業利益	1,273	1,550	277
(持分法損益)	239	240	1
経常利益	1,574	1,700	126
純利益	522	800	278
ROE	7.3%	10.0%	
ナフサ価格	¥63,500/kl	¥49,100/kl	
為替レート	¥109.76/\$	¥121.0/\$	

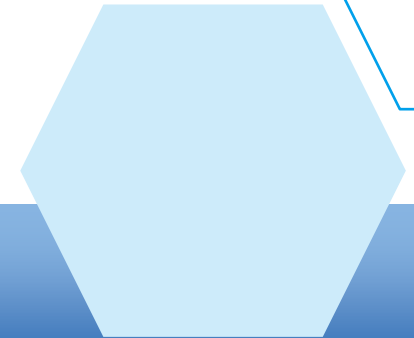
2015年度業績予想:セグメント別営業利益予想

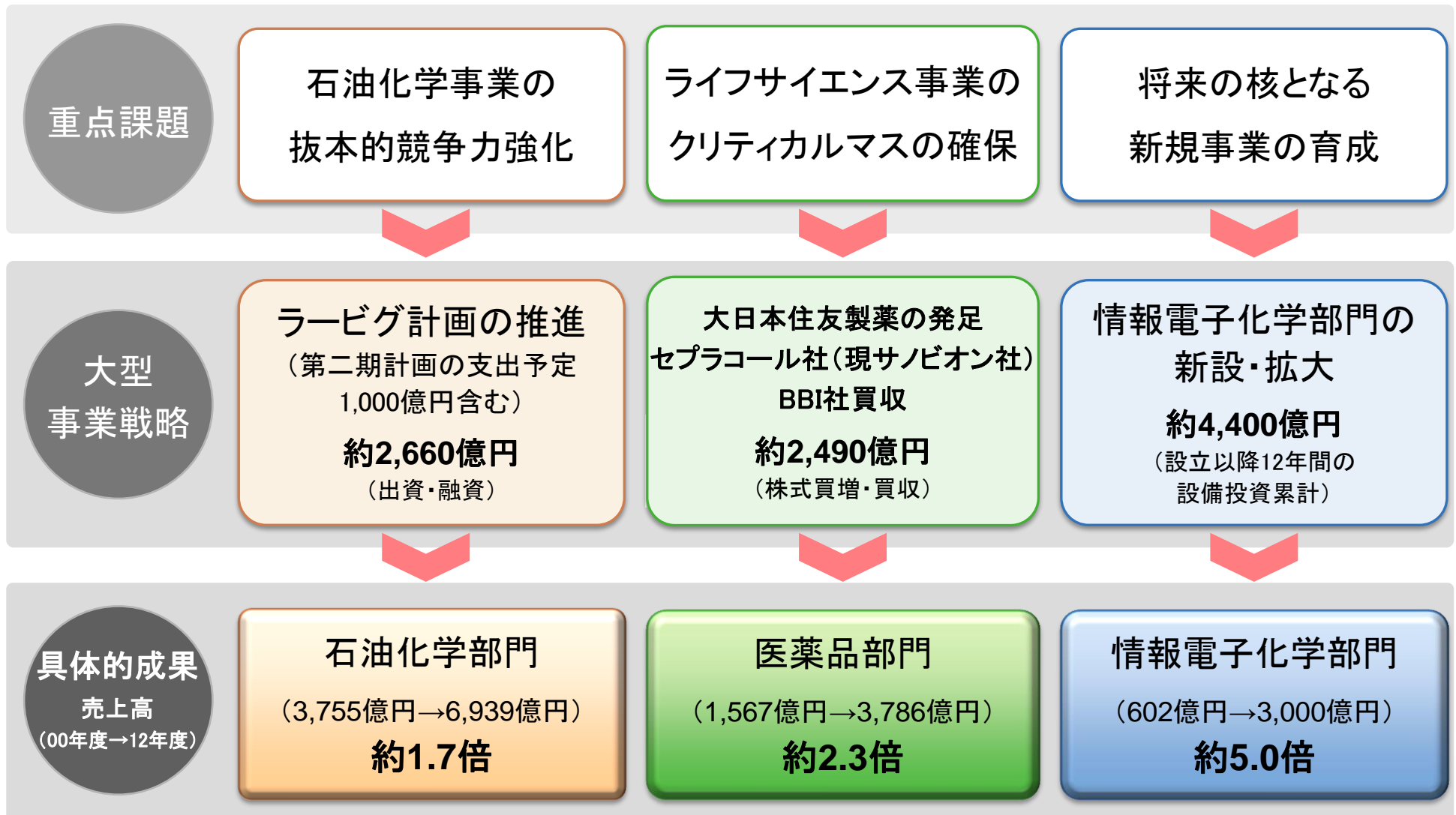
Change and Innovation

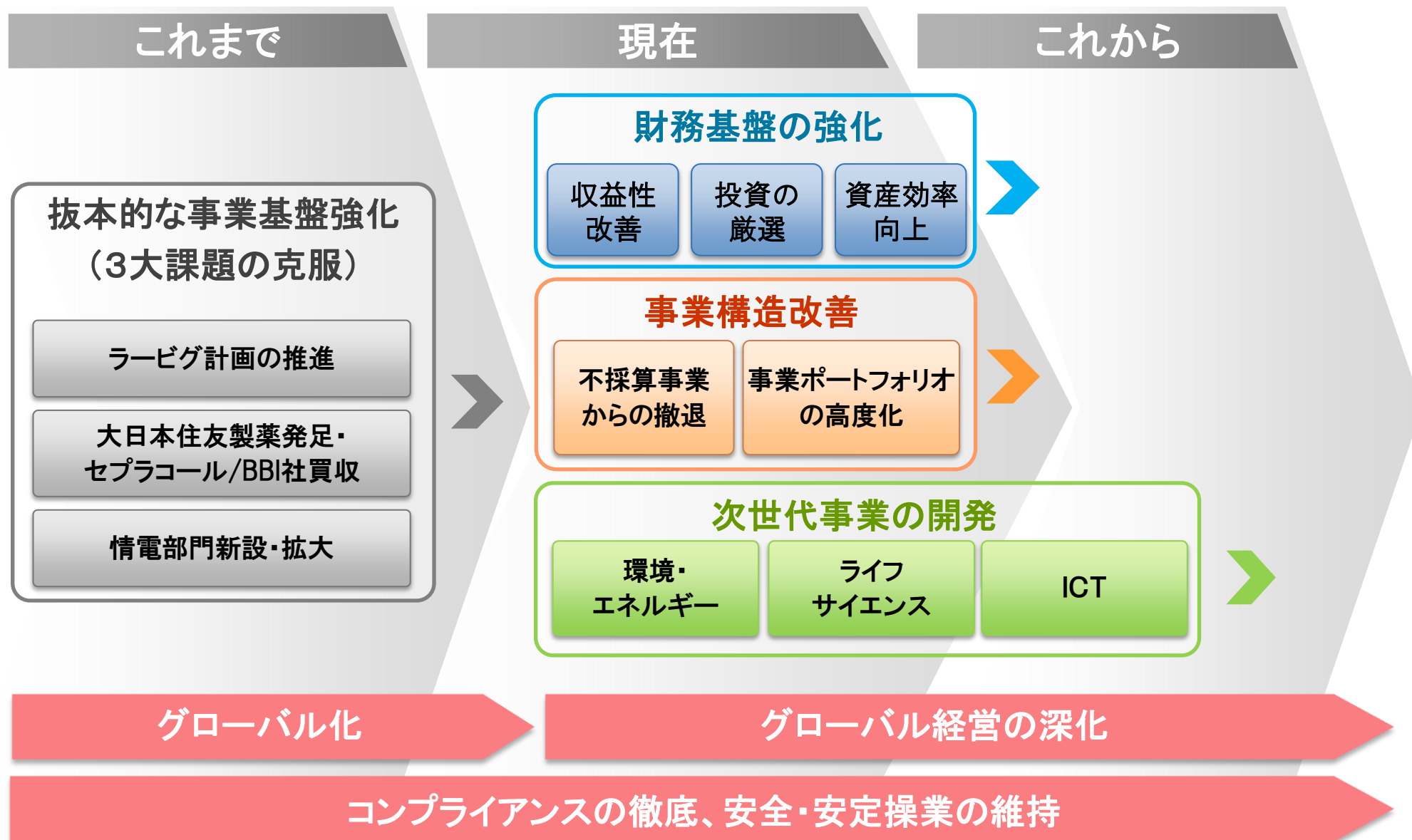
(単位:億円)

	2014年度 実績	2015年度 予想	前年比
スペシャリティケミカル	1,183	1,400	217
エネルギー・機能材料	8	10	2
情報電子化学	324	300	-24
健康・農業関連事業	561	750	189
医薬品	290	340	50
バルクケミカル	208	250	42
石油化学	208	250	42
その他	-118	-100	18
合計	1,273	1,550	277
持分法投資損益	239	240	1

次期中期経営計画に向けて







中期経営計画の進捗:財務基盤の強化

Change and Innovation

(単位:億円)

	2010～2012年度 (実績)	2013～2015年度 (中期経営計画)	2013～2015年度 (予想)	2015年度 (予想)
営業 キャッシュ・フロー	4,723	5,400程度	7,152	2,600
投資 キャッシュ・フロー	▲4,457	▲4,000以内 ^{※1}	▲3,018	▲1,100
フリー キャッシュ・フロー	266	2,000以上 ^{※2}	4,134	1,500

※1. ラービグ第二期計画への出資金1,000億円を含む

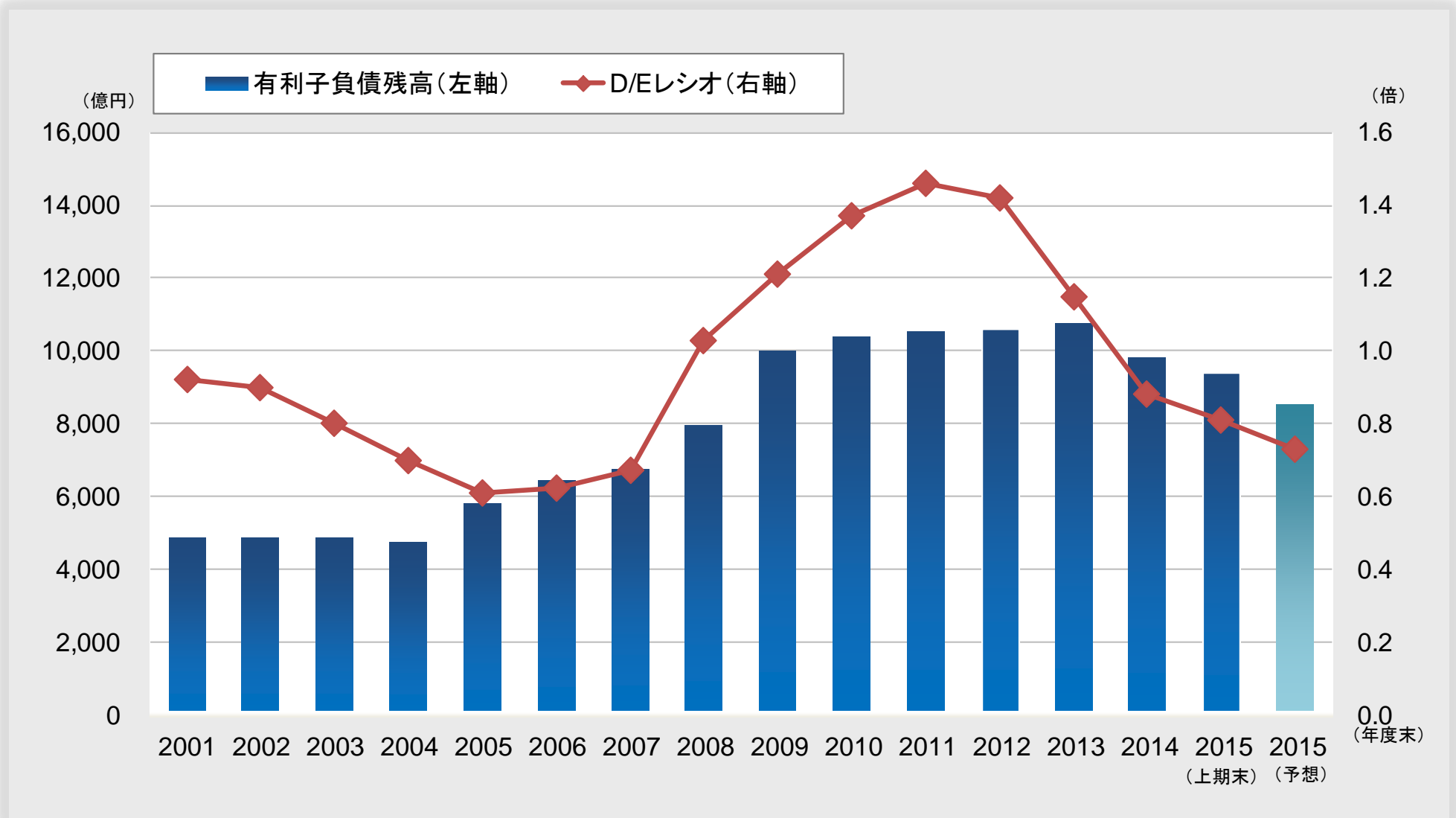
2. 現預金等の減少を含む

(単位:億円)

	2012年度末 (実績)	2015年度末 (中期経営計画)	2015年度末 (予想)	2015年度 上期末 (実績)
有利子負債残高	10,606	9,000未満 ^{※1}	8,500	9,389

※1. ラービグ第二期計画への出資金1,000億円支出後

中期経営計画の進捗：財務基盤の強化



スペシャリティケミカル領域



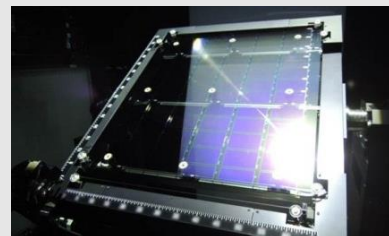
主な取り組み実績

- タッチセンサーパネルの生産能力拡大と製品ラインナップ拡充
- 農薬の海外販売拡大
- ラツォーダの販売拡大

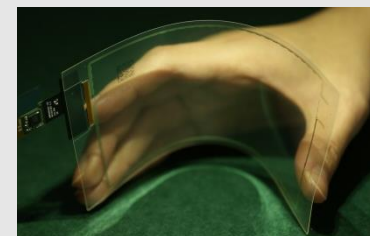


事業ポートフォリオの高度化

タッチセンサーパネルの製品ラインナップ拡充

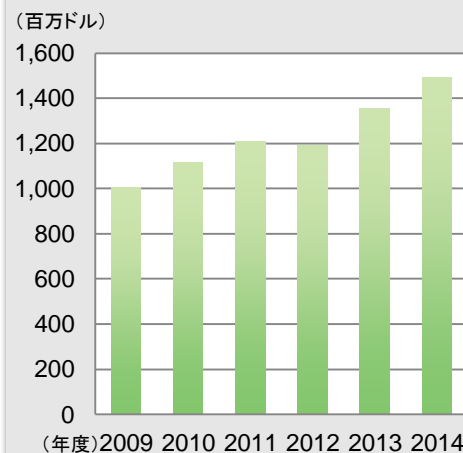


ガラス型タッチセンサー



フィルム型タッチセンサー

海外農薬の販売推移



ラツォーダの販売推移



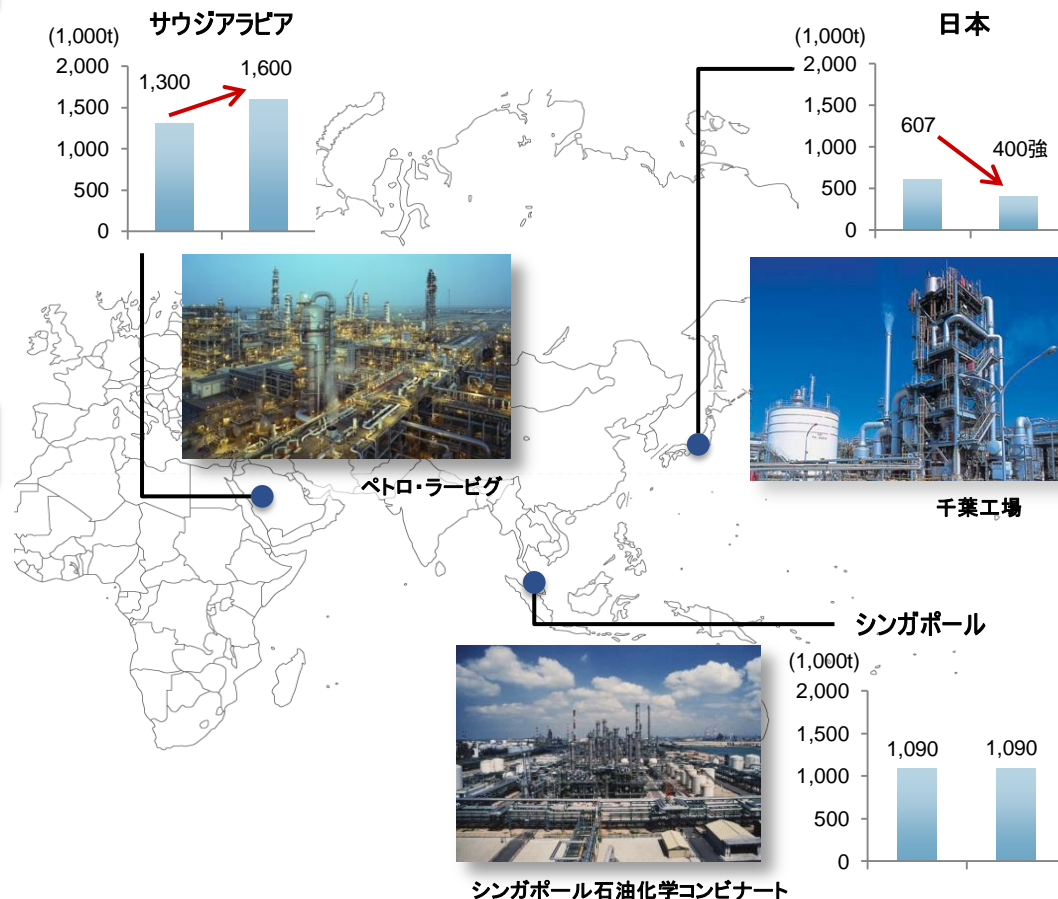
バルクケミカル領域

事業再構築

主な取り組み実績

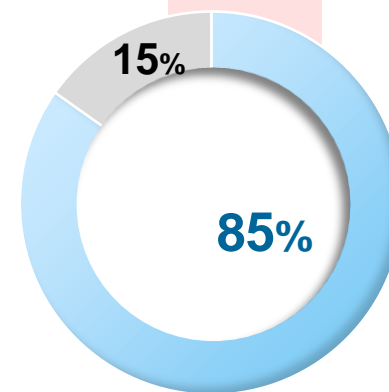
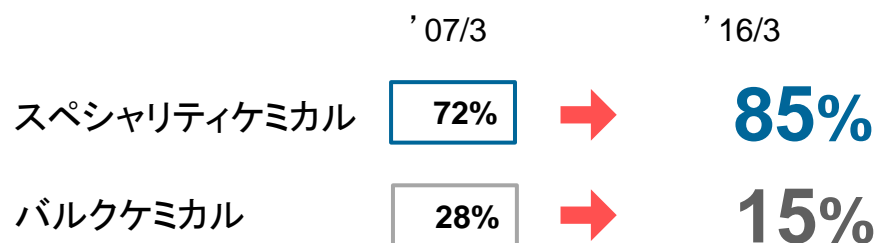
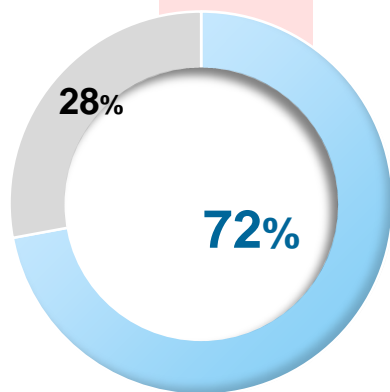
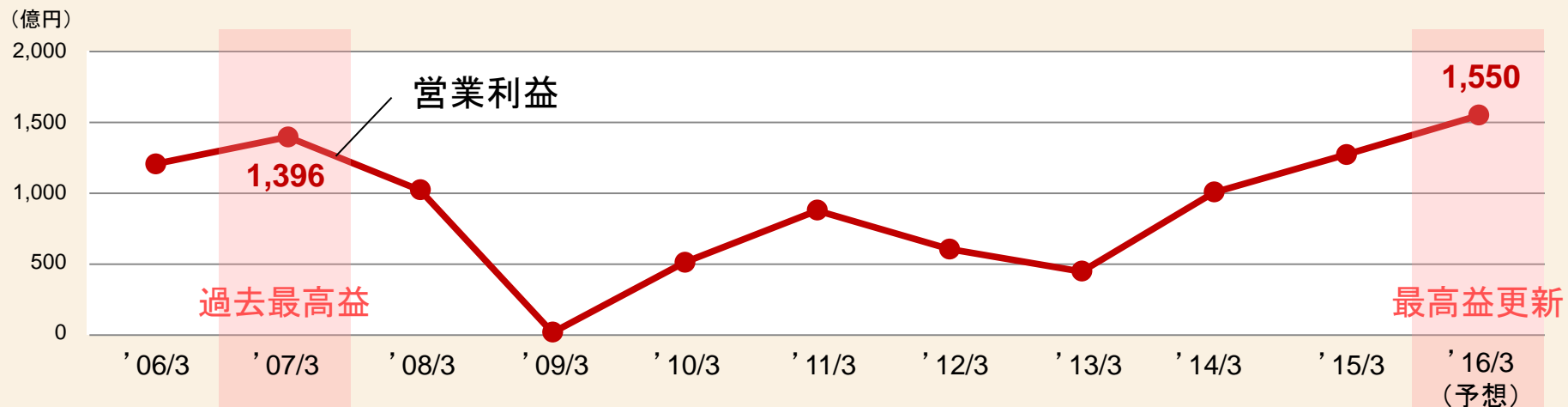
- 千葉工場エチレンプラントおよびPO/SM併産法プラント生産停止
- カプロラクタム液相法プラント生産停止
- ラービグ第二期計画の進展

グローバル生産体制の最適化



事業ポートフォリオの高度化

営業利益と構成比の推移



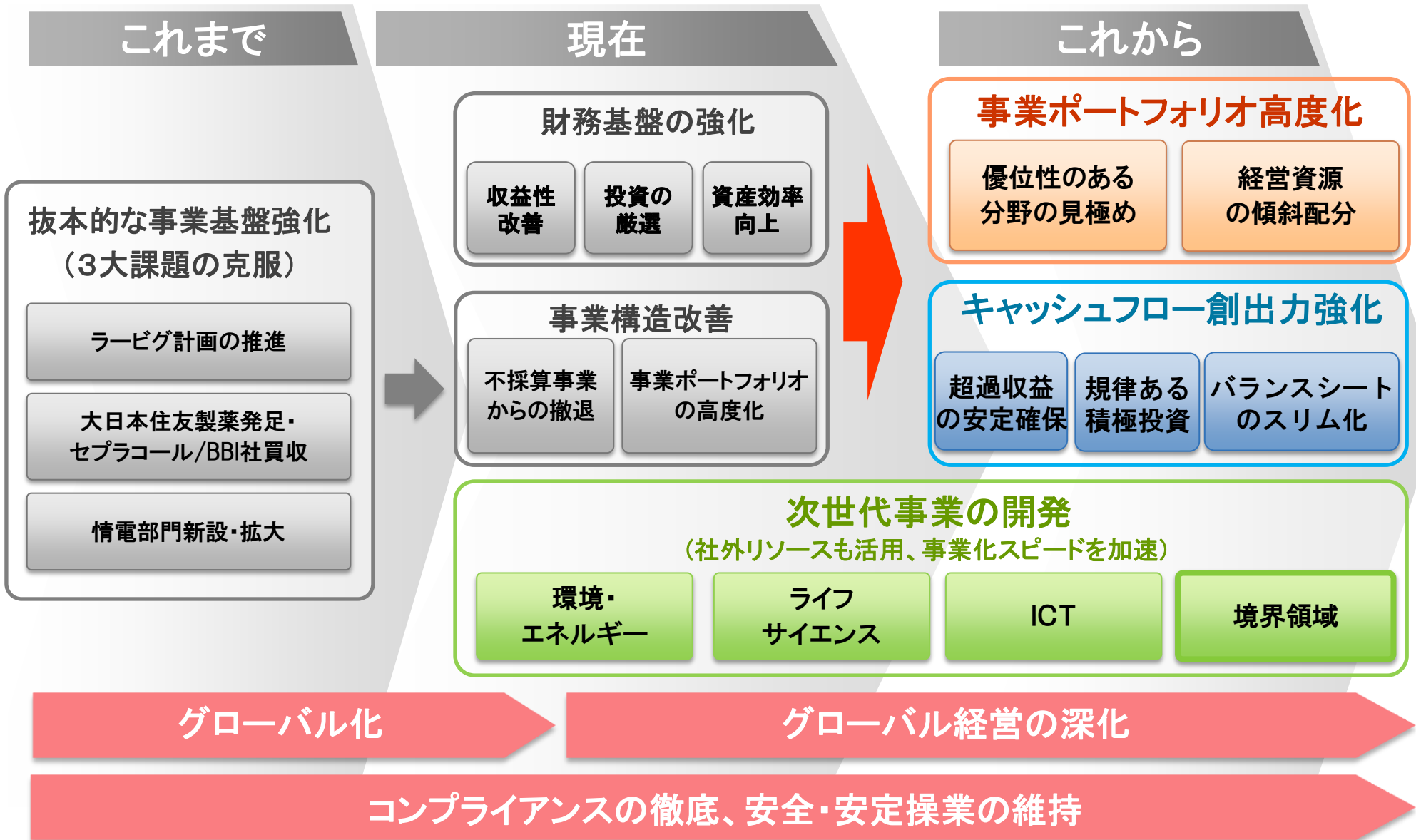
(注) その他部門・消去を除く営業利益の構成比

スペシャリティケミカル領域の収益力が大幅に拡大

中期経営計画の進捗: 次世代事業の開発

本格普及時期	2011年	2015年	2020年～
<p>環境・ エネルギー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Si系太陽電池 (HEVA、電極ペーストなど) ✓ リチウムイオン電池(セパレータ) ✓ LED照明(サファイヤ基板、アルミナなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 有機EL照明 パワースパイク(エピウエハー) ✓ 耐熱・熱伝導材料 ✓ DPF ✓ CO₂分離 	<p>有機薄膜太陽電池</p> <p>次世代二次電池</p>
<p>ICT</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 次世代偏光板 ✓ 光学封止材料 ✓ フレキシブルディスプレイ用材料・部材 	<p>有機ELディスプレイ(発光材料)</p>	<p>有機半導体</p>
<p>ライフサイエンス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 統合失調症治療剤 ✓ ES・iPS細胞を用いた化合物安全性評価・創薬 	<p>がん幹細胞標的薬</p>	<p>クロープストレス マネジメント</p> <p>細胞医薬 再生医療</p>

✓ : 事業化済み又は事業化(実用化)の目途が立った次世代事業



強み・優位性のある分野の見極め

積極投資・拡大分野

- **技術優位性**がある分野
- 市場アクセスの優位性がある分野

- 経営資源を集中投下 (M&A含む)

資本コストを上回る収益を
安定して稼ぐ事業を拡大

効率追求分野

- 技術による差別化が困難な分野
- 需要変動が大きい分野

- コスト優位性・資産効率の追求

資本コストを上回る収益の達成
投資回収の最大化

事業ポートフォリオの更なる高度化

財務基盤の強化

収益性の改善

投資の厳選

資産効率向上

キャッシュフロー創出力の強化

超過収益*の安定確保

- 競争力強化
- コスト削減

規律ある積極投資

- 積極拡大分野の見極め
- 投資リスクの見極め

バランスシートのスリム化

- CCCの継続改善
- 不要不急資産売却

*超過収益：資本コストを上回る収益

大型投資を機動的に実施できる
キャッシュフローを安定して生み続ける体質の定着

ICT

- ディスプレイ材料
- フレキシブルディスプレイ材料
- 半導体プロセス材料
- 高分子有機EL
- 化合物半導体

ライフサイエンス

- 化学農薬
- 微生物農薬
- ポストハーベスト
- 再生医療・細胞医療
- がん幹細胞標的薬
- 放射性診断薬
- 医療材料

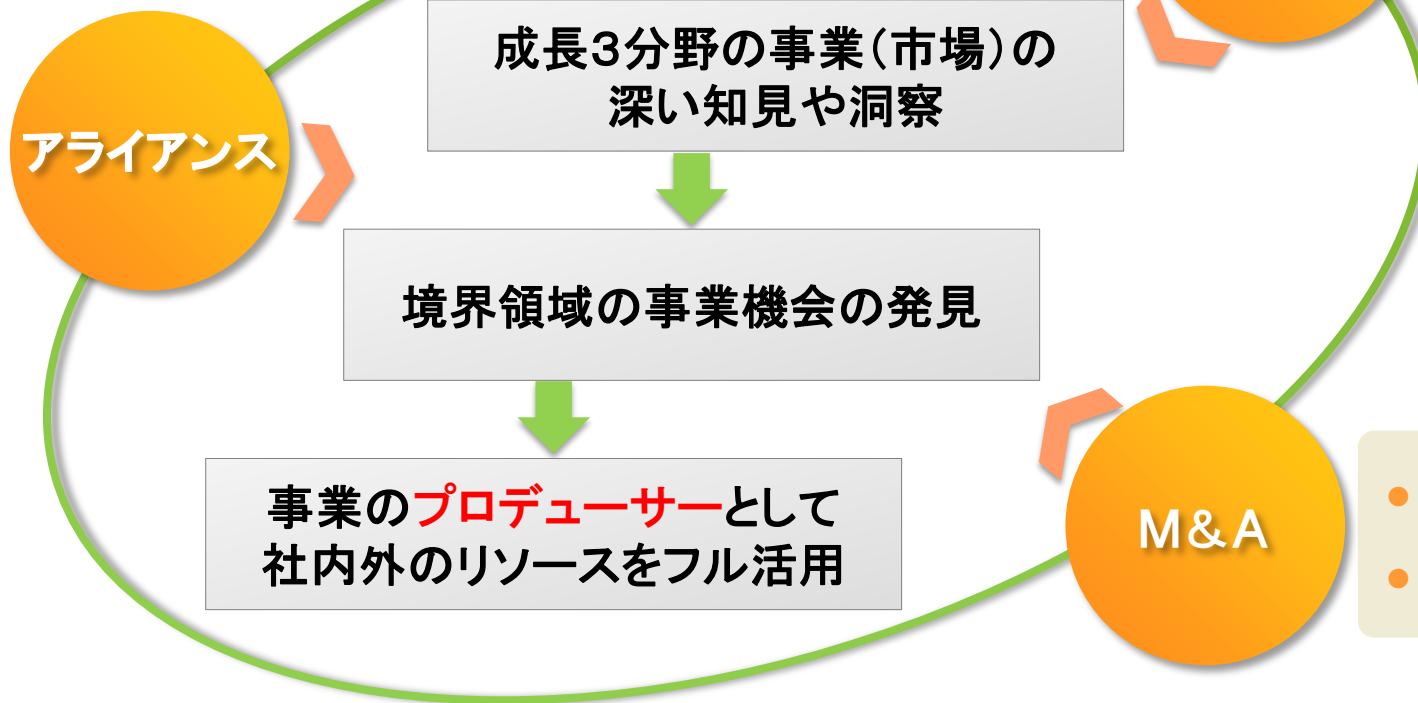
環境・エネルギー

- エネルギーキャリア
- CO₂分離資材
- 有機EL照明
- 二次電池関連部材
- 有機薄膜太陽電池

高成長が期待できる分野で多様なソリューションを提供

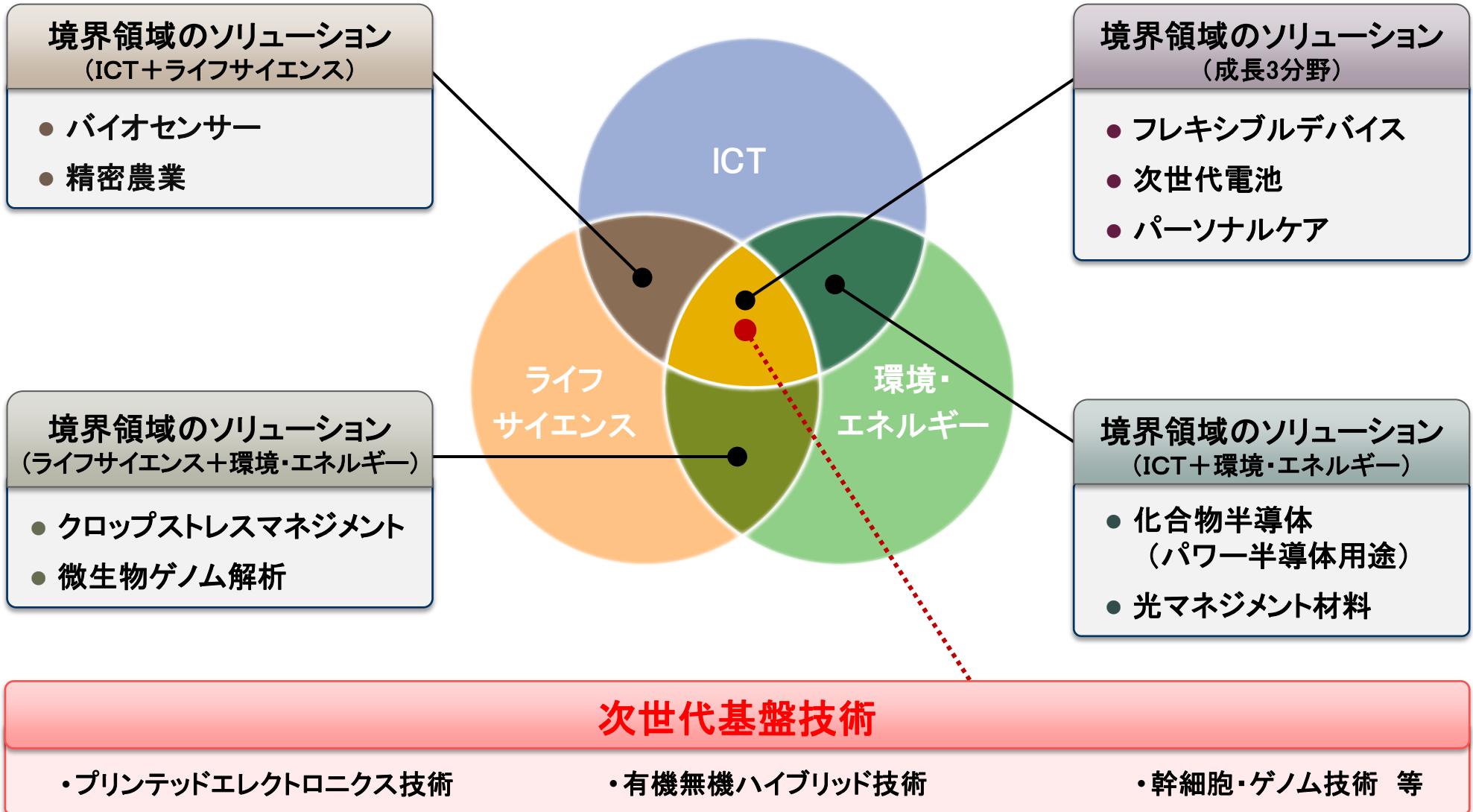
- オープンイノベーション
- 不足するリソースの補完

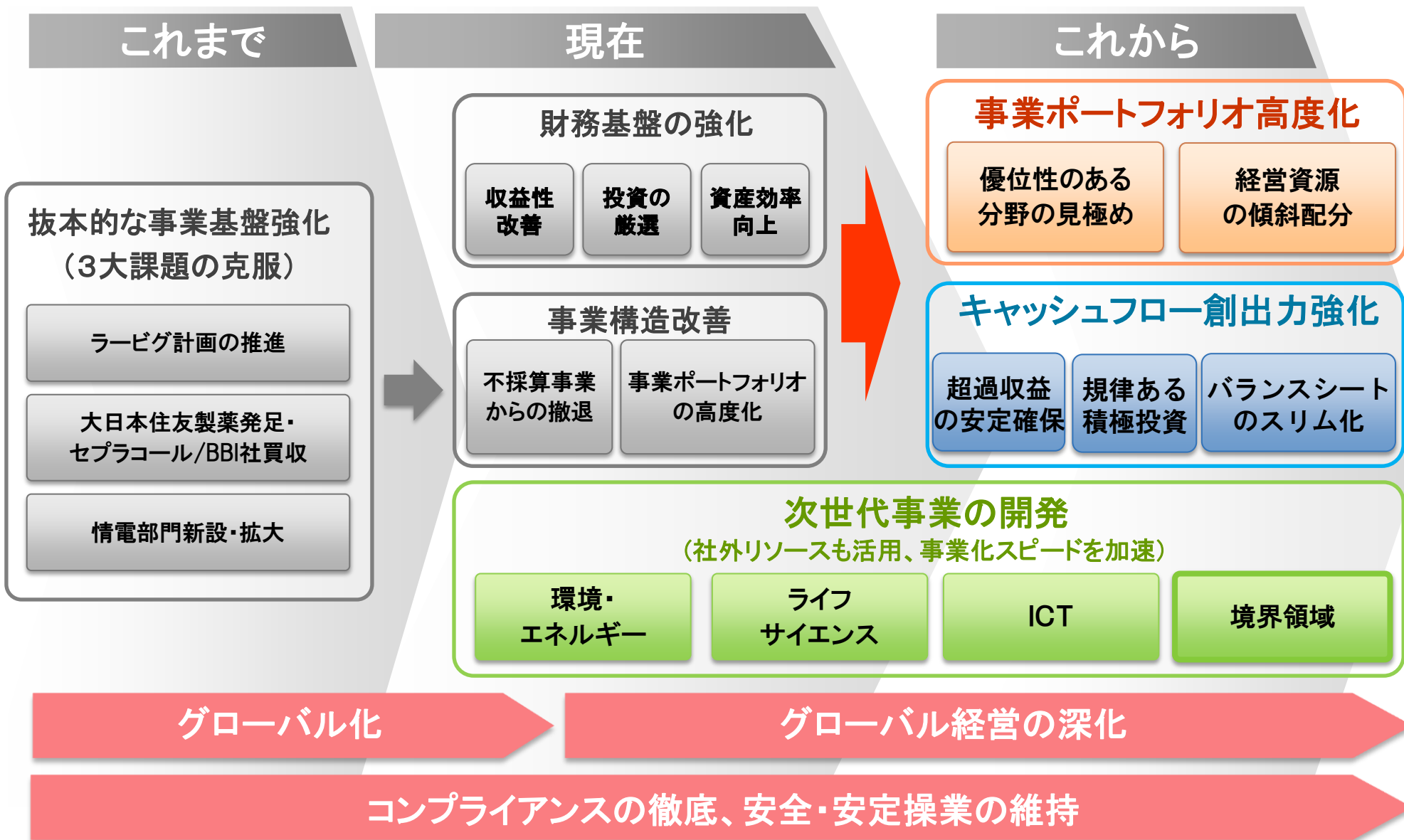
- 技術
- 製造・販売での知見



- 技術導入
- 不足するリソースの補完

境界領域の事業のソリューションの事業化加速



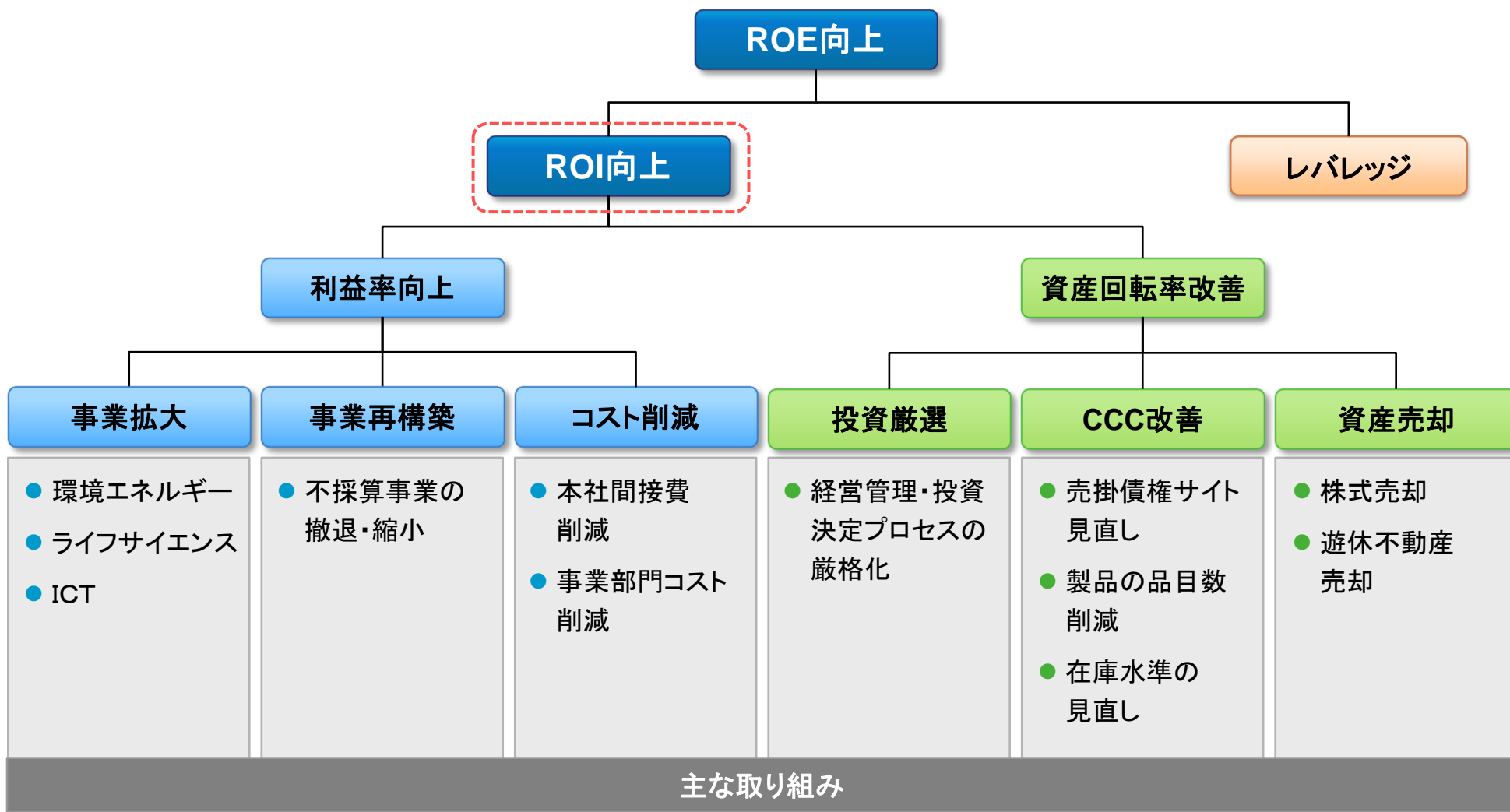


当社が中長期的に目指す姿

	目指す姿 以下を安定的に達成
ROE	10%
ROI	7%
D/Eレシオ	0.7倍
配当性向	30%
利益成長	年7%

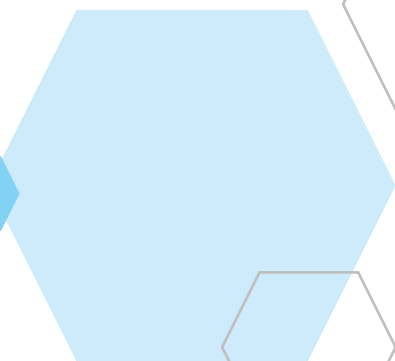
持続的成長を続ける、レジリエントな住友化学へ

ROI・ROE向上に向けた取り組み



主要プロジェクトの進捗

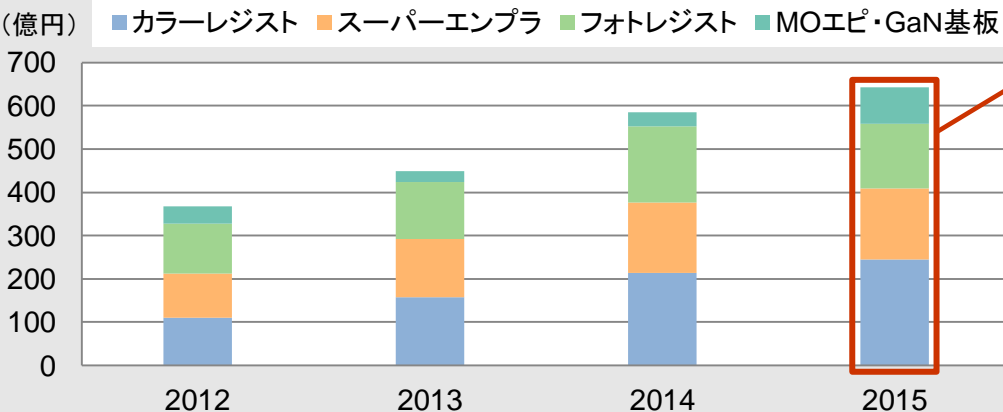
- ICT
- ライフサイエンス
- 環境・エネルギー
- バルクケミカル



製品ポートフォリオ

FPD材料	電子部品材料	半導体材料	電池部材
LCD/OLED ・偏光フィルム ・タッチセンサー ・カラーフィルター ・カラーレジスト ・プロセスケミカル	スーパーエンジニアリングプラスチック ・LCP ・PES	半導体材料 ・フォトレジスト ・ALターゲット ・ケミカル類 化合物半導体 ・MOエピ・GaN基板	リチウムイオン二次電池 ・セパレータ

■ ■ ■ ■ 成長事業群の製品



成長事業群の事業規模

現状

成長事業群
650億円

2020年

1,000億円超

売上高
4,450
億円

情報電子化学部門

カラーレジスト

強み・特徴

- 新規染料と顔料ハイブリッドレジストによる色特性の差別化
- グローバルで顧客近傍に開発拠点を設置



今後の戦略

- オール染料による高輝度化 & 高色再現化
- 成長が見込まれる中国市場での体制強化

スーパーエンジニアリングプラスチック

強み・特徴

- 航空機用複合材向け・車載分野での製品開発

今後の戦略

- 構造体用途への参入を含めた自動車分野の事業拡大



独自技術により世界をリード

フォトレジスト

強み・特徴

- 高解像度液浸ArF

今後の戦略

- 1xnm～5nm世代向け液浸ArFレジストの開発と拡販
- 厚膜i線の事業拡大
- ポストArF世代レジストの量産体制検討



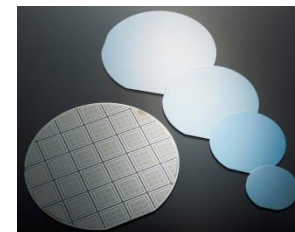
MOIピ・GaN基板

強み・特徴

- 化合物半導体ラインナップ (GaAs系・GaN系)
- 高品質GaN基板

今後の戦略

- パワーデバイス需要増に対応したGaN on Si事業の早期事業化
- GaN基板生産性と品質の更なる向上



引き続き高成長を期待

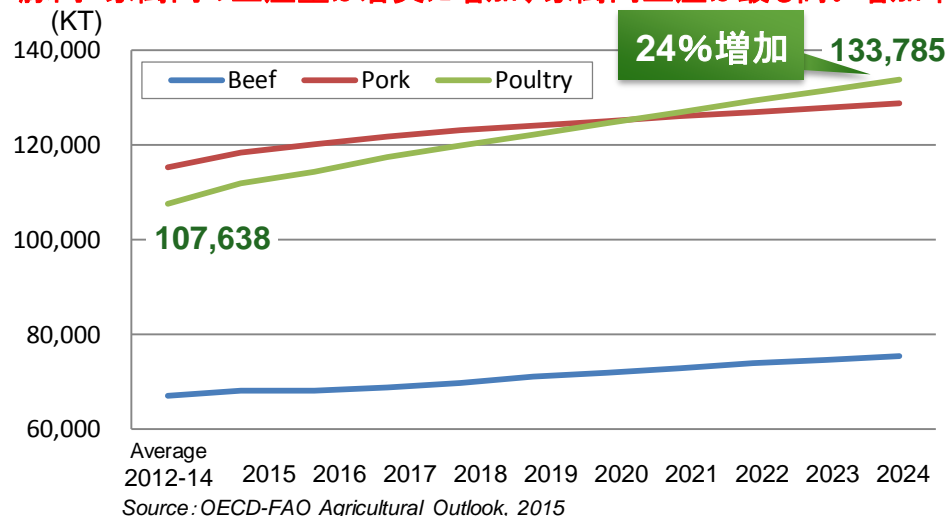


特に開発が進んでいる大型化合物

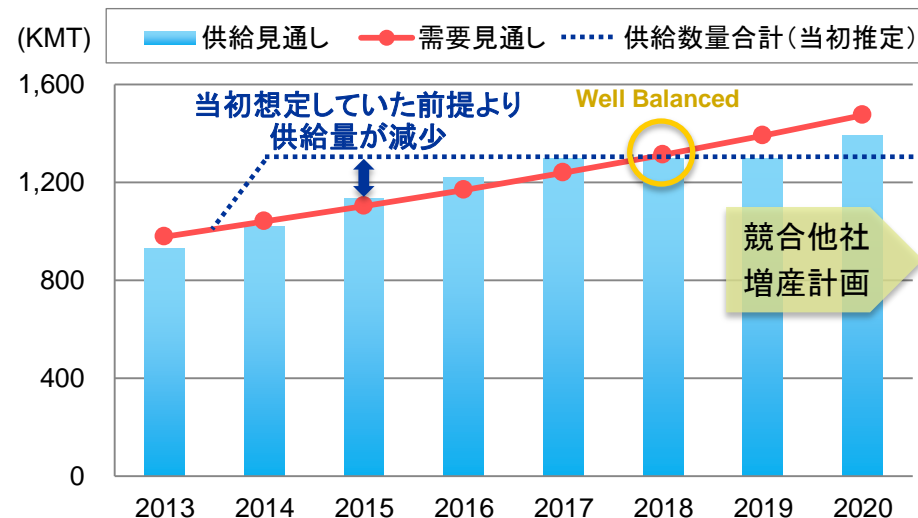
- 開発の加速化推進（従来の開発期間を最大で1年間短縮）
- 将来売上規模（原体販売・製剤販売の当社連結売上高） **1,000億円超**

食肉生産予測

豚肉・家禽肉の生産量は着実に増加、家禽肉生産は最も高い増加率



メチオニン需給バランス(2020年迄)



メチオニン需要量伸び率は6%超へ

当社メチオニンの特徴・強み

- 原料中間体からの一貫生産体制
- 高いコスト競争力
- 粉体、液体の製品ラインナップ



安全・安定操業、低コスト、品揃え

2018年以降は不足ポジションへ

今後の事業戦略

- 販売地域最適化、コスト合理化
- 2016年ボトルネック解消(生産能力10%超増)
- 更なる事業規模拡大検討／世界シェア20%目標

グローバルプレイヤーとしての基盤確立

コメ事業の意義

- 日本の農業が抱える課題の解決
- 当社のトータルソリューション型事業展開
- 多収・良食味コメ品種の導入

日本農業の競争力強化に貢献

品種開発

登録品種: 3品種 / 出願中: 2品種

さらなるラインナップ強化

(全国展開できる品揃え・実需者のニーズに
 応える玄米特性)



現状: 業務用途主体に販売展開

将来: 一般消費米・酒米・輸出米にも展開

栽培状況



コメ販売先の採用状況

	採用方向	採用交渉中
SD 1 (光の栖)	大手外食(系列店) そば大手 中食大手 業務用弁当大手	大手ファミレス (2件)
SD 2 (低アミロース)	大手コンビニチェーン	

セパレータの生産体制

韓国(大邱)工場

生産能力: 7,000万 m^2 /年

生産品目: アラミドセパレータ

稼働開始: 2016年秋

大江工場

生産能力: 1億4,000万 m^2 /年

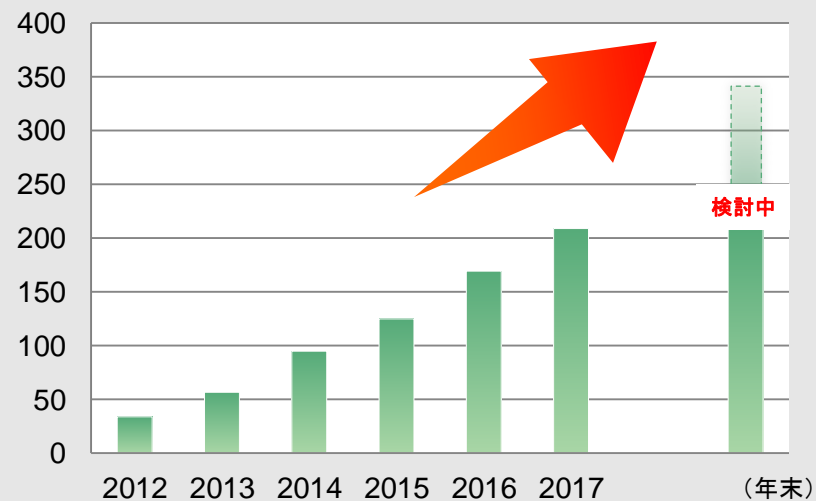
生産品目: アラミドセパレータ等



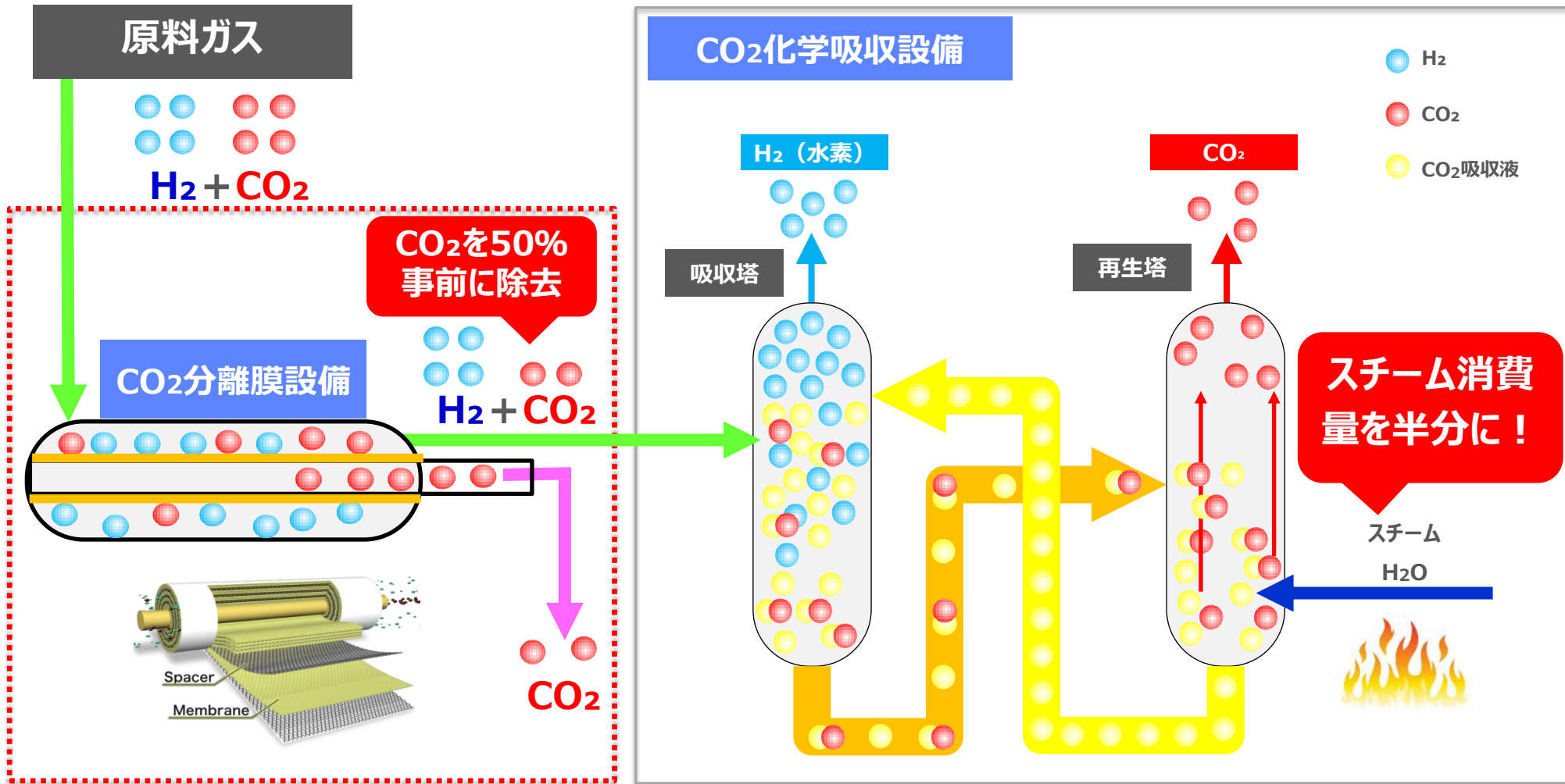
セパレータ

(ご参考)セパレータの生産能力

(百万 m^2)



化学吸収設備の前工程にCO₂分離膜設備を設置し、
CO₂を50%程度事前に除去することで、**スチームコストを削減**



CO₂分離市場(2030年予想)

水素製造
(精製、化学プラント)
市場規模：5.2億トン



天然ガス
市場規模：6.0億トン



石炭ガス化複合発電
市場規模：5.0億トン



発電、鉄鋼 (CCS/EOR)
市場規模：5.0億トン/3.0億トン


市場規模
26.2億トン





水素ステーション
市場規模：不明



CTL (Coal to Liquid)
市場規模：2.0億トン

 : H₂/CO₂分離

 : CH₄/CO₂分離

 : N₂/CO₂分離

定期修理の状況

- 10月11日に定期修理を開始
- 予定期間は約50日間

第二期計画の進捗

- エタンクラッカー拡張工事から
順次完工予定
- 2016年から段階的に稼働開始



ペトロ・ラービグ 第一期計画のオレフィンプラント

(ご参考) 工事費と資金調達の概要

総工事費	81億ドル
プロジェクトファイナンス	52億ドル
資本等	29億ドル

持続的な成長に向けて



コーポレート・ガバナンス・コード

- 全ての基本原則・原則・補助原則にコンプライ

社外取締役増員

- 1名から3名に増員
- 監査役を含む役員の4割が社外役員に

任意の委員会設置

- 任意の指名委員会・報酬委員会を設置(委員の過半数は社外役員)

ガバナンス 体制強化

取締役会の監督機能強化

- 社外役員によるモニタリング・アドバイザリー機能の強化
- 社外役員懇談会での意見交換などを通じて取締役会の実効性を評価

ガバナンスの実効性を高めるための確実な運用

株 主

コーポレートガバナンスコード

対話・エンゲージメント

スチュワードシップコード

住友化学

経営理念

技術を基盤とした
新しい価値の創造に常に挑戦

事業活動を通じて
人類社会の発展に貢献

活力にあふれ社会から
信頼される企業風土を醸成

経営戦略

次世代事業の開発

事業ポートフォリオ
高度化

キャッシュフロー
創出力強化

グローバル経営の深化

コンプライアンスの徹底、安全安定操業の維持

中長期的に目指す姿

(以下を安定的に達成)

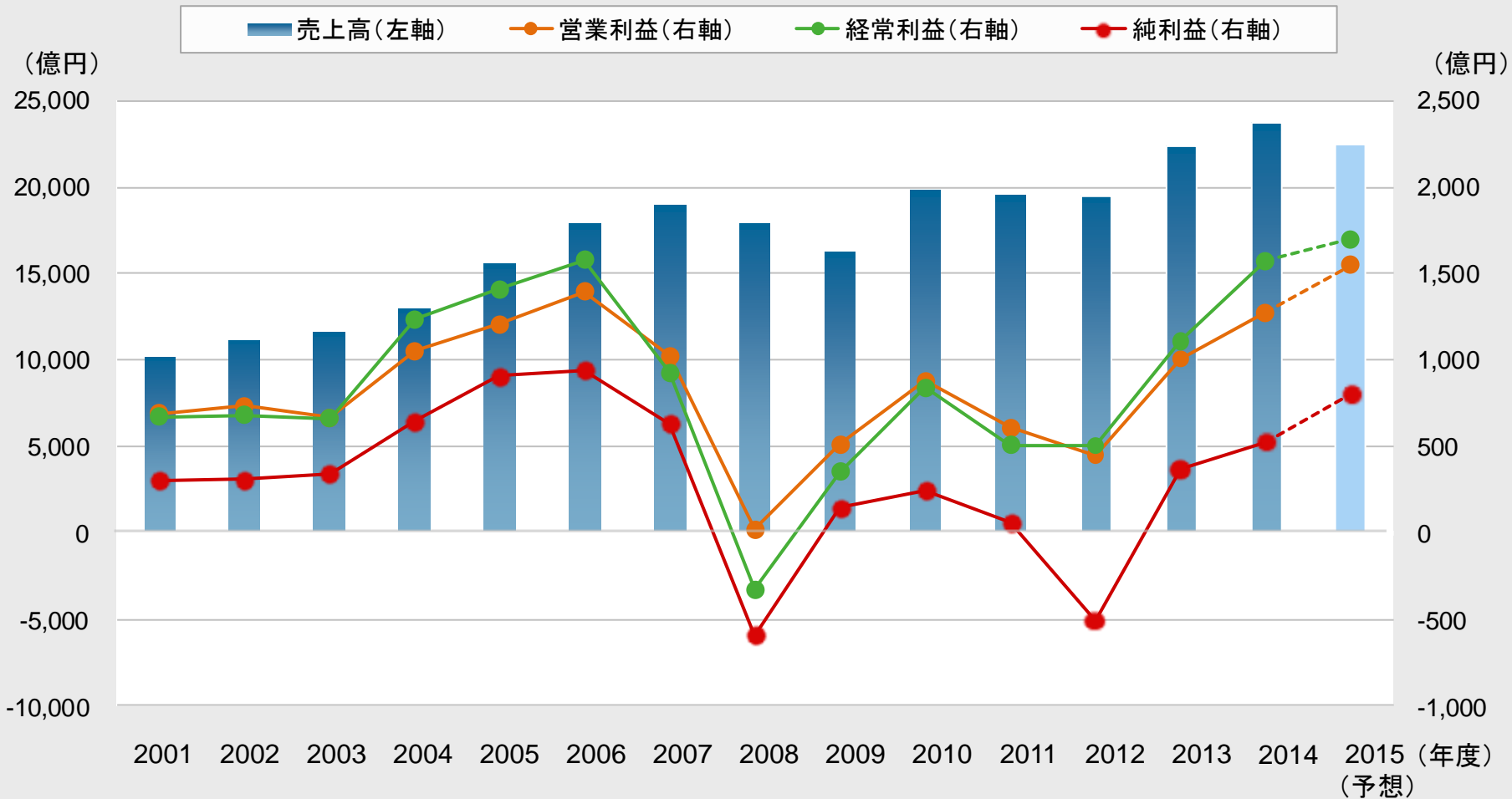
ROE 10%

ROI 7%

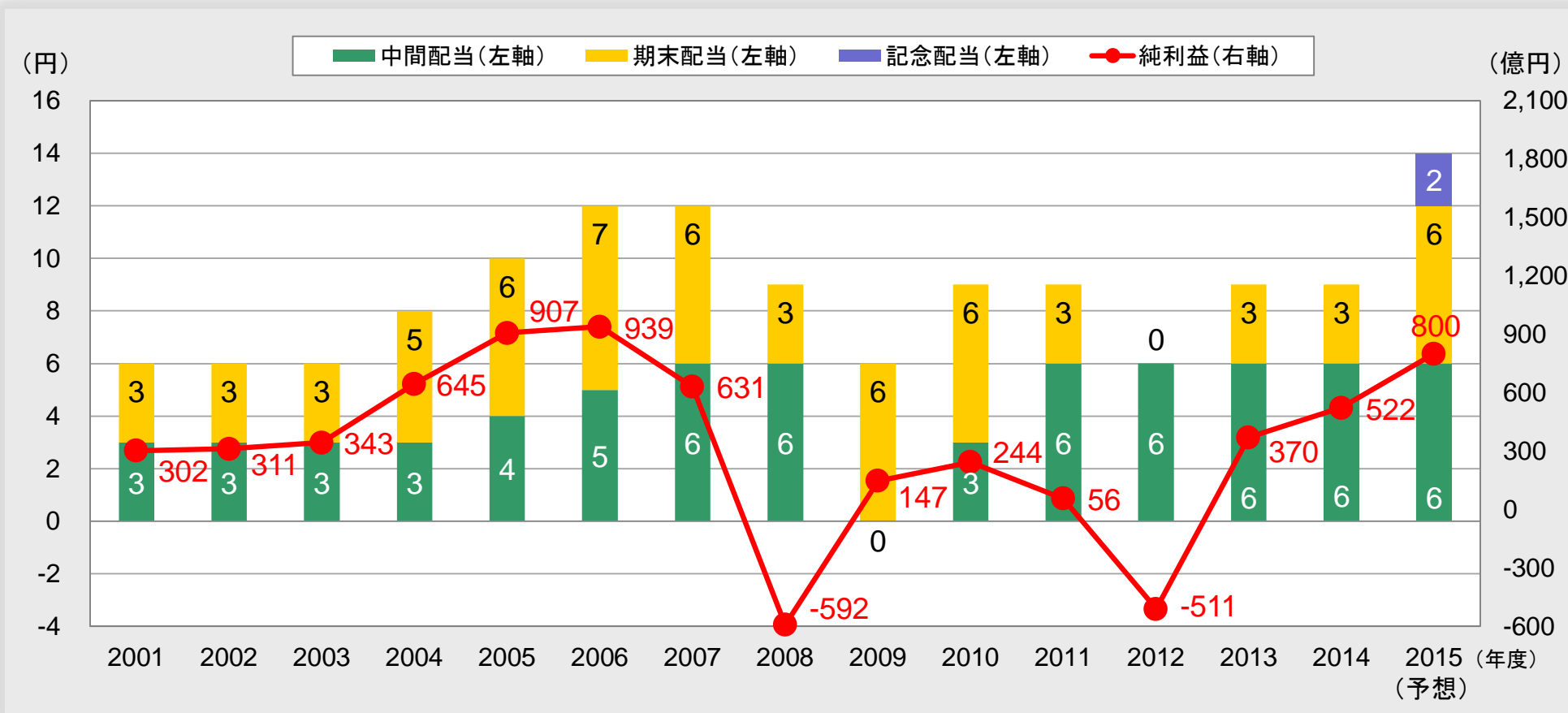
D/Eレシオ 0.7倍

配当性向 30%

利益成長 年7%



当社は、剰余金の配当の決定にあたり、株主還元を経営上の最重要課題の一つと考え、各期の業績、配当性向ならびに以後の事業展開に必要な内部留保の水準等を総合的に勘案し、安定的な配当を継続することを基本としております。



Creative Hybrid Chemistry



注意事項

本資料に掲載されている住友化学の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しです。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られた情報にもとづき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等に重大な影響を与えうる重要な要因としては、住友化学の事業領域をとりまく経済情勢、市場における住友化学の製品に対する需要動向、競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場において住友化学が引き続き顧客に受け入れられる製品を提供できる能力、為替レートの変動などがあります。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。